



元寇の礎石 (5月末日迄当館展示中) 丸尾圭祐氏撮影

地質博物館・能古島(2)

能古会会員
小川 誠

元寇の礎石

能古中学校の正面玄関に四角柱状の大きな石が置いてあり、傍の木札に、「礎石 昭和7年 内務省による博多港修築工事中に浚渫船野田丸によって発見引き上げられた。今より700年の昔、元寇の時、蒙古軍船の礎と伝えられる。寄贈者「石橋 勝」とある。

礎石は長さ90cm、高さ30cm、幅20cm、不整形の角柱状をなし、一方が僅かに細い。中粒の凝灰質砂岩からなり、1〜2cm間隔の弱い層理を有する。淡褐灰色を呈する塊状の中硬岩である。

かつて、文永の役(1274)に元軍2万、高麗軍1万数千、軍船900艘が博多湾に襲来し、弘安の役(1281)では、高麗の合浦(馬山)を出た東路軍と中国の寧波を出た江南軍に分かれ、博多湾には東路軍4万2千、軍船900艘が襲来した。さて、能古島で保存されているのは何方の軍船のものであろうか。

これまで礎石は山口及び北部九州の各地で多数保存され、石材についても凝灰質砂岩と花崗岩の2種類が知られている。その中で凝灰質砂岩の産地として明らかなのは、宮崎宮保管の韓国全羅南道長興南方の天冠山である。「地層は慶尚層群新羅統であり、日本の関門層群下関垂層群(白亜紀前期約1億2千万年前)に対比される」。

また、元軍は弘安の役のために高麗に軍船として大船300艘、中船300艘、小舟300艘を造らせたとあり、天冠山の礎石はこの時のものであろう。ところで、宮崎宮の礎石は長さ280cm、高さ最大35cm、幅最大20cmと大きく、これを大船のものとすれば、能古島のものとは長さが1/3程度なので、これは2個の礎石を両側に着けて中船に使用したのではないだろうか。

なお、長崎県北松浦郡鷹島にも多数の礎石があり、最近の研究によれば、放射性元素による年代測

定の結果、中国福建省産のアルカリ花崗岩（1億1千万年前）であることが分かった（鈴木・唐木田・鎌田、2000）。これはアルカリ花崗岩が韓国にはないこと及び江南軍が鷹島に襲来した事実などから、十分に納得できることである。すなわち、能古中学校の礎石は、石材の産地から東路軍のものと言えるであろう。

城ノ浦の不整合

城ノ浦の不整合は、三郡変成岩と古第三紀層との境界である。能古郵便局の北東300mの道路沿いの大きな礫岩の下に小さな凹みがあり、そこで見られる。

地質時代で言えば古第三紀の始新世、今から約5,000万年前、この地域では陸地が沈降し、海が内陸部に入ってきた。その海の底に、下から礫岩、砂岩の順で地層が堆積していった。これは姪浜、野間の方まで続く地層で（一部は陸上に堆積したものもあり、石灰層や木の葉の化石なども含まれている）、ここ能古島の地層が福岡地域の古第三紀層の始まりと言われている。

海が陸地に侵入する、すなわち、

海進の時にできた新しい堆積層の最下部には礫岩層があり、その礫岩を「基底礫岩」と呼んでいる。そして、この基底礫岩の下の地層の接触面は、すなわち、かつての

侵食面であり、堆積が不連続であるために、その侵食面を「不整合面」と呼んでいる。

黒雲母片岩

城ノ浦地点では、片理面が急傾斜した三郡変成岩の黒雲母片岩の上に、古第三紀層の基底礫岩が「不整合の関係」で載っている。この礫岩は緩く南に傾斜しているが、その勾配に沿って海岸に目を走らせると、基底礫岩は島の南端から遙か姪浜の地下に潜っていることが分かる。

ぬめり石

昔、博物館の裏道にぬめり石と呼ぶ黒い石が顔を出していたそう。北浦海岸の黒雲母片岩と同じものだったと言われる。しかし、今はコンクリートの排水溝の下あたりに隠れて見えないようだ。この地点は地質図では古第三紀層の分布範囲ではあるが、実は、その下の浅い所に黒雲母片岩が隠れていたのである。このように、地質情報が集まれば能古島の地質図の精度が向上するので、今後共、皆様からの情報の提供をお願いしたいと思っっている。

（次号に続く）



城ノ浦の不整合 小川 誠氏撮影

すなわち、この不整合の露頭に立てば、「福岡炭田ここに始まる」と感慨深いものがあり、このため、地質学を学ぶ者誰もが、ここを天然記念物として保存することを

亀井家学を支えた女たち(3)

昭陽妻イチ下

早船正夫

(福岡地方史研究会會員)

◆昔の塾 今の塾

昔も今も、塾というものが塾生相互の切磋琢磨による学問技芸の向上をめざす「志」において、変わる所はない。ただ大きく異なるのは、昔——といっても江戸時代の漢学の私塾の事なのだが——は必ずしも塾生からは授業料(束修Ⅱそくしゅう)を徴収できたわけではなかったという事である。

親元がそばにある通学生ならまだしも、他郷から笈を負うて、来たり学ぶ塾生については、入門の束修は納められたにしろ、その後の事まではわからない。送金方法にしても思うままにまかせられないであろう。それは私塾の経営としては他郷の塾生が増えるにつれ、食費などの面で経済的に苦勞することにつながる。

しかし他国から遙かに来たり学ぶ者は、先生の学徳を慕ってこそ集まるのであり、束修の有無を無下には問えない。亀井塾のみでなくどの有

◆亀井塾の赤字補填

亀井塾には最盛期三十から四十の在塾生があり、うち約半数が他郷からの寄宿生であったという。亀井学は获生徂徠の古文辞学の系統にあり、学問として甚だ難解。それにも係わらず遠方から集ってくる塾生には、相応の配慮を要したのである。

現在なら公的援助も考えられようが、当時の状況では期待できようはずもない。昭陽の十五人扶持(年間米七十五俵)の薄給では勿論足りない。

塾の維持のための主な赤字補填の方途として次の事が考えられる。一は昭陽が稼ぎ出す書の潤筆料(謝礼)



「亀井塾幼童書法帳」 亀井昭陽筆

名私塾にとっても、塾生の増加は嬉しいことではあるが、その点は悩みであった。

二は「習字塾」の営み三はスポンサー(後援者)の資金援助である。

◆昭陽の撰文と揮毫

南冥や昭陽の書や文は、当時の筑前においてはこれを求める者が多く、所持することは大きなステータス・シンボルでもあったし、このことは世間の広い階層に浸透していた。

一例として、烽山日記の冒頭の一節をあげよう。昭陽が烽火台の番人として鞍手郡六ヶ岳に登山する際、麓の家に立ち寄る記述である。〔以下は読み下し文〕

「山民ノ莉榛(雑木)ヲ柞リテ家スル者アリ。笠ヲ撤(かか)ゲテ之ヲ視(うかが)フニ故障(やぶれ障子)ニ李白ノ客中行ヲ書ス。

字々傀俄(大きく勢いよく書かれ)玉山マサニ墮(くずれ)ントス。老叟清作ナル者アリ。

年七十 日ク「是レ二十年前、亀井主水君(南冥のこと)金崎(鐘崎)ニ遊ビ、酒間ニ賜フ所ナリ」ト。之ヲ視レバ家君ノ図印炤然(明らか)タリ。

閑防(書の冒頭に押す印)「氣万丈ノ虹ヲ吐ク」ト曰フ。

尊名ハ陰文尊字ハ陽文。三顆(書の末尾の三組の印章)ハ皆小野英元ノ篆刻スル所ナリ。

余日ク「山二靈アリ、莉榛ノ中我が父ニ邂逅(でつくわ)セリ」ト。驚キテ日ク「官人ハ是レ豈太郎君(昭陽のこと)カ。

君ノ書モ蔵ス閣板上ニ在リ」ト。既ニシテ嘆ジテ日ク「堂々タル高士、一ニ何ゾ卑シキナルカ」ト。新泡茶二甌ヲ啜リテ出ツ

昭陽の四十六歳から六十二歳に及ぶ日記「空谷日記」を読むと、実に多数の「額書ヲ乞フ」「字ヲ需ム」等の依頼がある。

漢詩添削・碑文(石に刻んで後世に示す文)・誄文(その死をいたむ文)・画贊(画家の描いた肖像画に添える文)・掛け軸・扇面(せんす)・扁額・神社の幟等々。

これらは依頼者の依頼目的に応じて、時宜と立場を勘案し、相手の立場にあつた「時処位」をわきまえたものでなくてはならない。一律な陳腐な文辞では、需用は萎んでしまう。昭陽は丁寧な性格そのままに、依頼者の要望をよく理解し、これに応えたのであろう。極め付きは藩主からの詩書四百字の揮毫(尤も上司の依頼の形をとっているが)である。文政十一年のこと、南冥の廃塾から既に三十数年。昭陽の藩内評価は、学問上での評価や真面目な勤務態度・控えめな性格が相まって、確実に良化していたのである。

能古博物館だより

◆潤筆料管理とイチの内助

潤筆料は亀井塾の経営に不可欠のものであるが、その数额的な計算は難しい。前能古博物館長の故庄野寿人先生は年間四拾兩と推定なさっている。

潤筆料はお金ばかりではない。むしろお金よりも、現物が多かったのではないか。米・麦大豆はいうまでもなく、野菜・魚・茶・酒・塩から鯨までである。筆・墨・紙等。木炭や衣類。多種多様である。これらは塾生の食費や教育材料に使われていく。

しかも受け取る時期が、ずっと前の通常的时候挨拶として受けた贈り物が、実は依頼のつもりであったとか、煩雑なこともある。

昭陽は几帳面な人柄で、これらの管理をうまく行っていたと思われるが、筆者は、女性の細かい配慮と柔軟な社交の裏付けを感じずにはられない。つまり「おかみさん」的な内助の功である。イチの性格は、次号で述べるつもりであるが、この「おかみさん」の役割にうってつけであった。但し、この点については、資料も口碑もない。

◆習字塾の営み

習字塾は近辺の幼学者を対象にするもので、いわば寺子屋のようなもの

のである。児童数に見合った束修が見込める。亀井塾では確実な収入源として考へてのことだが、昭陽にとつては初心者への手ほどきであり、行儀作法から導かなければならない。たいそう「疲労」を感じたようであり、しばしば「空谷日記」に記されている。

◆日田の広瀬淡窓の「咸宜園」

塾経営の赤字補填の最後は、後援者の資金援助であるが、この点について、日田の広瀬淡窓「咸宜園」との比較において考へてみた。



咸宜園東塾絵図 原図 広瀬資料館所蔵

広瀬淡窓は、十六歳より二年間、南冥昭陽の門で学んだが、その後も終生師事し、自分の門下生を亀井門に送り、更に研鑽を積ませたりしている。

その亀井塾入門および以後の見聞を詳細に記録したのが「懷菖樓筆記」であり、亀井塾を知る第一級の資料

である。前回述べた亀井塾の罹災時、避難先の姪浜まで日田から訪ねた時の記事も亀井を知る上で、詳細で有用である。

淡窓の学塾「咸宜園」の出身者は四千人にのぼるといわれ、淡窓は江戸時代屈指の大儒・教育者との世評を受けた。

この理由は、塾は身分階級の差をつけず、すべての人に開放され、入退塾や休塾は、各人の都合にまかされた。また経義は古義に拘泥せず、書を読むにも和漢古今を特に定めることなく、実に開明的であった。品性の向上を主眼とし、いくつかの職を設けて塾生自身に塾務を経験させ、もつて将来に備えさせた。有名な淡窓作「休道詩」は、当時の学園の雰囲気や彷彿とさせる。

道ふを休めよ、他郷苦辛多しと
同袍友あり、自ら相親しむ
紫屏眺に出づれば、霜雪のごとし
君は川流を汲め、我は薪を拾はん

◆亀井塾と咸宜園

淡窓の塾経営・教育方針は、亀井塾とある程度似ている箇所もある。

亀井塾は朱子学塾に較べて、「近代」に近づいており、淡窓はここで二年

間過ごしているからである。

しかし、淡窓は思い切つてこれを開明化した。特に経義を古文辞学に拘泥しないのは、相当の「近代化」であろう。亀井塾は、それは出来なかつたし考へもしなかつた。一途に荻生徂徠派の古文辞学の攻究に没頭した。要するに難しかったので、咸宜園のように亀井塾は大規模化しなかつた。

◆淡窓の出自は郡代代官所御用達商人

淡窓の財政基盤に言及してみたい。広瀬家は代々商家で、博多から日田に転住し、当初は堺屋のちに博多屋と改めた。父の代は日田代官所御用達商人も勤めていた。日田は江戸幕府の天領で、西国筋の郡代役所がおかれており、天領であるため種々の経済的な優位性があった。特に金融業に関しては各大名への貸付金の貸倒れが発生しにくいこともあつて繁盛を誇り、史上に「日田金」として著名である。

淡窓は、博多屋広瀬三郎右衛門の長男として生まれ、のち体質虚弱によつて、家業を弟にゆずり、儒業を主とする。

従つて博多屋の資産を塾経営に使用したかどうかは別として、咸宜園

の背後の財政基盤については、他郷にも広く知られ、塾生はこれに一応の安心を覚えていたのではないかと思う。

淡窓の生涯四千人の子弟は、教育・塾経営方針の斬新さに魅力覚え、その上でバックの財政力への信頼とが相まって、日田の癖地に來たり学んだ。

◆亀井塾の後援者は浦商人群

亀井塾の財政バックは、イチの実家五島屋（早船家）とその縁類となる紙屋（石橋家）を主とする姪浜の浦商人である。これに「空谷日記」に出てくる唐人町の橋本屋（上原家）や多くの浦商人、漁業者の後援があった。

日田の咸宜園に較べて小粒であるが、数は多い。もともとは博多の商人からの後援も存していたと思われるが、南冥の廃塾事件後次第に離れていったようである。しかし浦商人とはその後も深く結びついていた。

南冥が、姪浜の医業を出自としていたこともあるが、南冥の姉が五島屋に嫁していて、その娘イチは昭陽の妻となっている。五島屋は海産物の地方回漕という小規模業であつても積極的に亀井塾を支え続ける。その中でイチは否が応にも両者の窓口

に立ち続けねばならない立場にいる。五島屋は塾へ届け物をよく行った。魚が多かった。また塾生の休暇日の行楽に姪浜を選ぶ時は五島屋が宿となり、地引き網に興じた。

五島屋は、文政五年頃（イチ十四五歳）、亀井家の扶持米年七十五俵と、諸手当米年八俵を藩庫から代理受領し、これに鳥飼村の亀井家所有の田地八反からの小作米を収納。必要な金子は五島屋が要請に応じて届け、年末に差額を決済した。余剰があれば五島屋の「質蔵」資金で運用、不足の場合は翌年繰越の約定であるが、不足のことが多かった。「空谷日記」の各年末になると、この種の記載が頻発する。例えば、

紙屋全計 五島屋半計（紙屋は全部決済したが五島屋は半分のみ）
 文政六年末の差額は銀七百七十目（金換算十二兩余）の出超計算書が五島屋当主助次郎から出されたと「空谷日記」にある。

（次号に続く）

【訂正】前回「開戸堂」とあるのは「甘古堂」の誤りでした。

【参考文献】

○大橋亀井昭陽伝（二）より（十七）

庄野寿人（前能古博物館長）

○広瀬淡窓（吉川弘文館人物叢書）

井上義巳

事務局
こぼれ話

☆「地質博物館 能古島」の執筆をお願いしている小川誠先生が、入院なさいました。冬、木葉が落ちていた間に能古島の石の採集を少し延期です。いつもお元気な先生で、前回の北浦採石場跡の写真も、丸尾さんのみかん山から道なき道を歩きまわって撮って下さいました。誰も見てはいないけれど、コッソリといただいて食したみかんは、まさに蜜柑の味。丸尾さん、すみません。もうすぐ先生は退院だそうです。今回の表紙の写真は能古中学校にある「元寇の礎石」。写真を撮る為に校長先生をはじめ大人四人がかりで校舎の外へ運びだしてもらいました。翌日、腰痛になった先生もいたとか。有難うございました。この礎石をみつけた石橋勝氏（能古島在住）によると、この石よりも、もっと大きな礎石がみつかったそうですが、能古島へ運ぶ直前に「消えうせた」とのこと。とても残念そうに話してありました。

☆能古島のホットニュースをひとつ。島にインターネットの窓口ができました。その名も「このネット」!! 山田慎也君と丸尾圭祐君高校生二人（能古島在住）が設立しました。お金と時間のなさをバリバリの若さでカバーして頑張っています。以下山田君の言葉です。「私達がめざしているのは能古島をグローバルスタンダードにすることです。その第一弾として、

「このネット」を立ち上げました。今までも能古島を紹介するホームページは個人的に創ってはいましたが、やはり限界があることに気づきました。能古島で商売や事業をおこなっている方々の御協力を得、能古島の総合的な人口を確保しなければ、すべてが始まらないと考えるに至り、「このネット」を立ち上げました。私達の力で、この島を、どのように変えることが出来るのか、わかりませんが、より多くの人々に能古島のことを知ってもらう窓口になれる様、最大限の活動をおこなっていかうと考えています。」これに伴って当館のホームページとEメールも変わりました。頁の最後を御覧下さい。

☆もうすぐ桜の季節がやってまいります。当館敷地内の一〇〇本余りの桜も毎年、みごとに開花します。館内から眺めるとその花びらは谷間の風にのり、時として、真横に流れ舞散ります。ぜひ一度御覧下さい。



館内風景

能古博物館だより

能古博物館協賛会・友の会

〔法人協賛会員〕

- 医療法人原土井病院 原寛
- ワタキユーセイモア(株)
- 福岡メデイカルリース
- ㈱アールアンドエム
- ㈱クリニカルデータサービス
- 福岡桜郵便局 鬼後信孝
- 福岡能古郵便局 西方俊司
- 福岡赤坂郵便局 戸田正義
- 日清医療食品(株) 福岡支店
- 福岡岡経営管理センター
- ㈱サンコー
- 医療法人 恵光会原病院
- ㈱西日本銀行 和布支店
- ㈱西日本銀行 千代町支店
- ㈱西日本銀行 香椎支店
- ㈱西日本銀行 土井支店
- ㈱西日本銀行 福岡流通センター
- ㈱西日本銀行 新宮支店
- ㈱西日本銀行 箱崎支店
- ㈱西日本銀行 久山支店
- ㈱サンネット
- ㈱福砂屋
- ㈱昭和鉄工
- 商業コンサルタント
- 井本医科器械(株)
- ㈱九電工 福岡東営業
- ㈱高電社
- ㈱タカミ工業
- ㈱福東電設
- ㈱電通技研
- 出口塗装
- 笠松会有吉病院
- 日本スラット(株)
- ㈱川島工務店
- 有内川工業
- ㈱第一特殊金属
- ㈱ミドリ生コン
- 有サンワ
- 梶原塗装(株)
- 文化シヤッター(株)九州特販
- エステイ工業
- タイヨウ設計
- ㈱奥村組
- 有三洋建設
- 東邦企画
- 協同設備
- 株式会社センタービジネス
- 有ウエダ建築社
- 九州防災工業(株)
- 有西部エレベーターサービス
- 有豊友設備
- 総合産業(有)
- ㈱ニッコク・トラス
- ㈱メイデン
- ㈱ゼロックス
- ダイアド(株)
- ㈱ホスピカ
- ㈱ニチイ学館
- 大成印刷(株)
- ギャラリー1倉
- 福岡リハビリテーション病院
- 江頭会さくら病院
- ㈱ニチロ九州支社
- 善隣教
- 山見商会
- ㈱リコー商会
- ㈱橋本組
- 下山工業(株)

〔協賛会会員〕

- 松本盛二③
- 南誠次郎⑩
- 中山重夫⑥
- 菅直登⑧
- 早船正夫⑪
- 浄満寺⑩

〔友の会会員〕

- 奥村宏直⑦
- 笠井徳三⑦
- 荒木双葉⑧
- 沖安昭光⑤
- 伊藤茂⑩
- 亀井雅輔⑩
- 熊谷雅子⑥
- 石橋観一⑩
- 木原敬吉④
- 坂田雅之④
- 庄野直彦④
- 原田國雄⑦
- 森光英子⑦
- 永井功⑤
- 緒方益男⑦
- 浦上健⑦
- 山本稔③
- 山中隆輝②
- 武内隆泰②
- 白水義晴⑦
- 石野智恵子⑩
- 翠川文子⑥
- 多々羅節子⑩
- 熊谷豪三⑩
- 吉原湖水⑨
- 有江勉①
- 山崎拓③
- 上田勉③
- 七能太郎⑦
- 西喜代松⑥
- 梅田光治⑦
- 桐寛子⑦
- 具島菊乃⑤
- 瀧栄三郎③
- 永田蘇水⑥
- 西村俊隆⑥
- 明石散人⑥
- 矢部俊幸①
- 立石武泰⑪
- 伊藤茂⑩
- 水置貞正⑪
- 水戸龍一③
- 岡部六弥⑩
- 星野万里⑧
- 吉野芳江⑧
- 安松勇一⑩
- 上田良一⑦
- 高田浩二⑨
- 桑野充子⑧
- 藤木充子⑩
- 和田宏子⑨
- 板木継生⑦
- 行成静子⑨
- 鬼塚義弘⑨
- 片岡洋一⑩
- 石川文之⑧
- 橋本敏夫⑦
- 山内重太郎⑧
- 都筑久馬⑧
- 斎藤拓⑨
- 横山智一⑧
- 宮賀清子⑩
- 西崎集⑦
- 岡本金蔵⑦
- 三宅碧子⑩
- 星野金子⑧
- 林九楼⑧
- 宮徹男⑩
- 安永友儀⑧
- 織田喜代治⑧
- 上田博⑦
- 鶴田スミ子⑨
- 塚本美和子⑥
- 伊藤康彦⑤
- 寺岡秀實④
- 原田種美④
- 石橋清助⑨
- 井上敏枝⑤
- 隈丸清次⑦
- 吉野信一⑤
- 浜野とき⑤
- 大山宇一⑥
- 葉山政志⑤
- 川島貞雄⑦
- 岸洋子⑧
- 柳山美多恵⑦
- 久芳正隆⑦
- 半田耕典⑥
- 武藤瑞之④
- 莊藤敏④
- 吉田洋一⑤
- 永岡喜代太⑥
- 神戸純子④
- 渡辺美津子⑤
- 山田博子⑥
- 佐藤泰弘⑥
- 前田静子④
- 飯田晃⑤
- 神岡克己③
- 神戶聡③
- 林野祥子③
- 田里朝男③
- 池田修三③
- 吉田一郎③
- 黒田喜美子③
- 岩谷正子③
- 小川正幸②
- 榎藤菊郎②
- 井手俊一郎②
- 増田義哉③
- 宮嶋熊太郎④
- 土井千草①
- 松坂洋昌①
- 稲永実①
- 鹿毛博通④
- 古川映子④
- 松井俊規④
- 伊藤博史④
- 衛藤泰輔⑧
- 田代直輝⑩
- 西村達彦⑧
- 執行敏彦④
- 渡辺千代子⑦
- 後藤和子②
- 脇山浦一⑩
- 川浪由紀子⑧
- 川田啓治④
- 足達輔治④
- 中村ひろえ⑨
- 古賀謹二⑦
- 野尻敬子③
- 大野幸治④
- 榑田正己⑨
- 青木良之助⑨
- 神崎憲五郎⑦
- 金子柳水④
- 佐野至⑧
- 佐野太⑩
- 宮崎春夫⑩
- 鬼丸碧山⑦
- 山崎エツ子④
- 小山元治④
- 吉瀬宗朗⑩
- 古賀義明⑩
- 西山正昭⑥
- 市丸善一郎⑥
- 豊島嘉徳⑦
- 守瀬孝二①
- 田本達也⑩
- 鋤田祥子④
- 桑形シズエ⑧
- 酒井カツヨ⑧
- 佐々木謙⑧
- 島義博⑧
- 村上紀子③
- 中畑孝信⑧
- 西島道子⑩
- 村上靖朝⑧
- 森本憲治⑤
- 嶽村魁⑤
- 庄原光男④
- 木原健次⑦
- 鈴木憲津子⑥
- 田中加代④
- 山根ちず子⑩
- 村山吉廣⑦
- 住本直之②
- 大島節子④
- 間所ひさ子⑨
- 伊藤英邦①
- 鹿毛光子①
- 古賀朝生①
- 林正孝②
- 井上雷策②
- 田中寛治②
- 土屋伊雄①
- 井重儀②
- 原礼子①
- 小堀百合子①
- 原康二①
- 原牧子①
- 杉みどり②
- 山下清久②
- 杉原正毅③
- 大久保昇②
- 党隆雄③
- 福澤弘弘②
- 小嶋幸雄②
- 福本孝行③
- 樋口陽一②
- 片桐淳二⑦
- 木下勤⑦
- 桑形シズエ⑧
- 酒井カツヨ⑧
- 佐々木謙⑧
- 島義博⑧
- 村上紀子③
- 中畑孝信⑧
- 西島道子⑩
- 村上靖朝⑧
- 森本憲治⑤
- 嶽村魁⑤
- 庄原光男④
- 木原健次⑦
- 鈴木憲津子⑥
- 田中加代④
- 富永紗智子①
- 吉村陽子⑦
- 松本雄一郎⑦
- 石橋善弘③
- 徳重認①
- 岩淵謙治⑥
- 岸本雄二②
- 武田正勝②
- 武田初代子②
- 近藤雄文②
- 西嶋克司③
- 樺島政信③
- 丸橋秀雄⑤
- 井上清⑦
- 上杉和稔⑦
- 木村秀明⑤
- 富田英寿⑥
- 野上哲子⑥
- 益尾天嶽⑥
- 山崎剛一①
- 小山正文①
- 平山孝博①
- 石橋正治①
- 亀石正之①
- 荻野忠行①
- 藤田一枝①
- 松尾清美①
- 蓮尾正博①
- 森祐行①
- 吉安善子①
- 村上修一①
- 阿部昌弘①
- 結城進①
- 永石順洋③
- 重松史郎①
- 藤井マツエ①
- 藤井勝夫①
- 山本光玄①
- 岸川龍夫①
- 吉開史朗①
- 田中靖高①

●能古博物館ご案内●

開館 9:30~17:00 (入館16:30まで)
 休館日 12月1日~2月末日の冬季のみ休館
 入館料 大人400円・中高生200円
 交通 姪浜 能古行渡船場→フェリー(10分)
 →能古(徒歩5分)→博物館
 〒819-0012 福岡市西区能古522-2
 ☎(092) 883-2887
 FAX(092) 883-2881
 ホームページ <http://www.nokonet.com/museum>
 メールアドレス museum@nokonet.com

※新規の御加入(先号以後、平成十三年二月二十八日現在)を、記載いたしておりましたので、何卒、芳名をご確認下さい。ありがとうございました。

友の会 年間3千円(何口でも可)
 (館の活動、館誌購読と催事企画に参加)
 自然と文化の小天地創造

協賛会(個人)年間1万円(何口でも可)
 // (法人)年間3万円(何口でも可)
 〔館維持、資料収集、施設整備等の資〕
 〔金援助を受ける〕

納入方法 郵便振替 0173019160970
 財団法人 能古博物館
 右の会費受領は、その都度本誌に掲載、以後会費相当期間を名簿にします。
 ※のこネットが立ち上がり、ホームページ・Eメールが左記のようになります。変更をお願いします。

